

算命学中庸

【初年】 35回目

35回目の授業はこのページからです。

授業科目 【人体図純濁法】

・【初年】 35回目【人体図純濁法】01

⇒ 人体図純濁法（じんたいずじゅんだくほう）

34回目の授業【人体図だし方】でまなびましたように……

〔人体図〕には「十大主星」が五星でできます。

それらの星を〔純星〕〔濁星〕に分けることができます。

〔純星〕と〔濁星〕に“良い”“悪い”とかの意味はありません。

拉致被害者〔曾我ひとみ〕さんのご家族を例題として、
段階的に話を進めていきます。

* 曾^{そが}我 ひとみ 1959(S34)-5-17

	己 己 己		貫索星	天報星	7 庚午
辰	亥 巳 亥	牽牛星	調舒星	牽牛星	17 辛未
巳	戊	天報星	貫索星	天将星	27 壬申
	甲 庚 甲				37 癸酉
	壬 丙 壬				47 甲戌
					57 乙亥
					67 丙子

曾我ひとみさんとおなじ生年月日の人は、世界中に何万人といるでしょう。何百万人かもしれません。

生年月日がおなじでも、それぞれの運勢はちがいます。

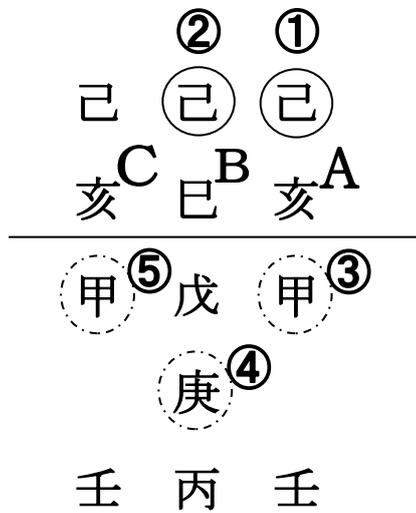
曾我さんの両親と、その人たちの両親がおなじ生年月日ということはないでしょうし、環境も異なります。

両親がいつ結婚したのかによっても変わってきますし、兄弟がいるのか、いないのかでも、違ってきます。

とうぜん育った国も環境も影響します。

それゆえ、おなじ生年月日でも運勢は異なるのです。

* 曾我 ひとみ 1959(S34)-5-17



	貫索星 ①	天報星 A
牽牛星 ⑤	調舒星 ④	牽牛星 ③
天報星 C	貫索星 ②	天将星 B

宿命のだし方は勉強しました。この人体図とおなじになれば正解です。

1. 節入り日から、生まれた日までを数える。

(節入り日も、生まれた日も、共に1日と数える)

2. その日数を二十八元表にあてはめ、二十八元を決定する。

3. 日干から、ほかの5つの干を見て、星になおす。

人体図ができあがりましたら、これを基^{もと}にして、占いを
していきます。人体図の実践的な観方を勉強します。

⇒ 【人体図純濁法】

人体図をだして、1 番初めに占うのは「人体図純濁法」^{じんたいずじゅんだくほう}だとおもってください。鑑定するときは必ず観^みます。

人体図純濁法という名称のとおりでして、人体図には

〈純の人体図〉と〈濁の人体図〉の二通りあります。

人体図を観て〈純^{じゅん}〉なのか〈濁^{だく}〉なのかを判別します。

純 濁 法

十大主星を〈純〉と〈濁〉に分類しました。

純 星 ⇒ 鳳閣星・禄存星・司禄星・牽牛星・玉堂星

濁 星 ⇒ 貫索星・石門星・調舒星・車騎星・龍高星

純星	清らかで穏 ^{おだ} やか、平和的な性質をもつ純粋な星。
----	---------------------------------------

濁星	濁 ^{にご} りに強く反骨 ^{はんこつ} 、動乱的な性質をもつ烈 ^{はげ} しい星。
----	-----------------------------------------------------------------------

純の宿命	おとなしく、やさしく、平和的な職業に向く。
------	-----------------------

濁の宿命	はげしい、きびしい世界に向く。
------	-----------------

純 の 人	安定した時期・平和な環境で能力を発揮する。
-------	-----------------------

濁 の 人	非常な事態・不安定な環境で能力を発揮する。
-------	-----------------------

⇒ 04 頁の実線枠内に書かれていますように、十大主星は

じゅん ほし ごせい だく ほし ごせい
純の星⇒5星 濁の星⇒5星 に分類されます。

これら星は各星の意味合いに応じて分類されたものです。

じゅんせい おだ
純星はどちらかといえば穏やかな星です。

だくせい
濁星は穏やかではない星です。

純星と濁星はこのように考えておくとよいでしょう。

🔍 04 頁 **純濁法** を参考にしてください。

純星 じゅんせい

ほうかくせい
☆ 鳳閣星

鳳閣星はのんびりの星です。ゆえに、鳳閣はどちらかというとなんげかです。それで純星です。

ろくぞんせい
☆ 禄存星

禄存星は親切でやさしい星という特徴をそなえています。それゆえ、どちらかというとなんげかな性格です。

☆ 司禄星^{しろくせい}

司禄星は堅実で家庭的な星という特徴がありました。

司禄星も穏やかです。

☆ 牽牛星^{けんぎゅうせい}

牽牛星は真面目で家庭的なので、どちらかという穏やかです。

☆ 玉堂星^{ぎょくどうせい}

玉堂星は学問の星ですが、母性愛をもっていて母性本能の強い星です。やさしい星です。これも穏やかです。

もちろん〔鳳閣星〕〔禄存星〕〔司禄星〕〔牽牛星〕〔玉堂星〕という5星については、1つ1つの意味合いは違いますが、まずは、穏やかなのか、穏やかではない……というように大雑把に分けますと、「穏やかです」というふうになります。

濁星 だくせい

☆ かんさくせい 貫索星

貫索星は頑固な星で、穏やかとはいえません。気が強い星です。ゆえに濁星になっています。

☆ せきもんせい 石門星

石門星は協調性の星ですが、反骨精神を内在しています。その意味では、穏やかというよりは、激しい、気が強い面をそなえている星です。それで濁星になります。

☆ ちょうじょせい 調舒星

調舒星は神経質・繊細ですが、内面に反発心・反抗心をそなえています。そして、執念深いところがあります。と習ったと思います。それゆえに濁星です。

☆ しゃきせい 車騎星

車騎星は行動力があり、攻撃本能が本来の姿ですから、これも穏やかではないのです。濁星です。

☆ りゅうこうせい 龍高星

龍高星は改革の星といわれるように、毎日、毎日おなじことの繰り返しでは飽きてしまいます。

穏やかな生き方は嫌いです。龍高星も濁星になります。

⇒ 実際に占うときには……。

人体図にある5つの十大主星の1つ1つを、〈純の星〉と〈濁の星〉に、はっきりと区別します。

🔍 04 頁 純濁法 を見ながら、はんべつ 判別すればよいですね。

曾我さんの人体図の5星は、貫索星・調舒星・貫索星・牽牛星・牽牛星です。人体図の星は、〈純星〉と〈濁星〉が混ざっている場合が多いのです。

まずは、各星を〈純〉なのか〈濁〉なのかを判別します。

そうしますと、第四命星の貫索星は〈濁星〉です。

ここでは **だ** と書いておきます。

	第 _四 貫索星 だ	
第 _二 牽牛星 じ	第 _五 調舒星 だ	第 _三 牽牛星 じ
	第 _二 貫索星 だ	

主星の調舒星は〈濁〉です。だ

第二命星の貫索星は〈濁〉です。だ

第一命星の牽牛星は〈純〉です。じ

第三命星の牽牛星は〈純〉です。じ

ご自分の人体図をだしたら、〈純星〉はいくつあるのか、〈濁星〉はいくつあるのか、数えます。必ずどちらかが多くなります。

⇒ 曾我さんは〈純の星が2つ〉〈濁の星が3つ〉ですから、〈濁星〉のほうが多いです。

	貫索星 だ	
牽牛星 じ	調舒星 だ	牽牛星 じ
	牽牛星 じ	

純星 2

濁星 3

〈濁星〉のほうが多いので、曾我さんは〈濁〉の人体図と結論を出します。

純濁の分類は難しくないのです。

〈純星〉と〈濁星〉の数を比べて、多いほうを採ります。
〈純が多ければ純の宿命〉で〈濁が多ければ濁の宿命〉
ということになります。

- ・人体図を出したら、まず1番に〈純濁〉^{はんべつ}を判別します。
- ・1つでも多いほうを人体図の特徴と考えます。

純星よりも、濁星が1つでも多ければ〈濁の人体図〉になります。

〈純の宿命〉なのか〈濁の宿命〉なのかを判別しても、
その意味がわからないと占いになりません。

そこで…… 🔍 04頁 純濁法 を見てください。

〈人体図が平和型の人〉と〈人体図が動乱型の人〉がいます。

〈純の宿命〉 平和型です。

〈濁の宿命〉 動乱型です。

濁は動乱型〔世の中が騒ぎ乱れるような、災害・戦争・不安定な状況〕に強い

濁は〔気持ちや態度が平静さを失って、激しく乱れるような環境〕に強い。

〔子供にとっては……貧困。両親の離婚。夫婦喧嘩なども含まれます〕

〈純〉 平和型 ⇒ 鳳閣星・禄存星・司禄星・牽牛星・龍高星

〈濁〉 動乱型 ⇒ 貫索星・石門星・調舒星・車騎星・玉堂星

これらの事柄は〈純〉と〈濁〉の基本です。

〈純〉と〈濁〉の基本をもう少し詳しく考えます。

平和型 ⇒ 平和で安定した環境に向きます。

平和型は「平和な時代」とか「安定した環境に向く」という意味があります。

＊ マリリン・モンロー 1926-6-1 [1962-8-4 没・35歳]

自殺といわれています（真相は不明です）。

	牽牛星	天報星
貫索星	牽牛星	司祿星
天祿星	鳳閣星	天極星

マリリンの人体図をみると、貫索星だけが〈濁星〉ですから、ほかの4つは〈純星〉です。

彼女の人体図は、おだやかな星〈純の星〉が多いですから、平和な時代・平和な環境のほうが生きやすいわけですね。

人体図は〈純〉ですから、マリリンは“純の宿命”です。

平和で安定した環境のほうが実力を出せる。そのように考えてもよいですね。

〈純の宿命〉 平和で安定した環境で実力をだせる。

平和という時代背景は、〈純〉の宿命の人に影響しますが、平和な時代だからといって、〈純の人〉が生きやすいとは限らないのです。

国そのものは平和な時代でも、その人物が^{いま}現在生きている環境は、動乱の環境なのかも知れません。

〔たとえば〕人間関係・会社組織・家庭などさまざまです。

そこが……平穏・安定した環境ではないかも知れないのです。

“平和な時代”といっても、その人が“^{いま}現在”置かれている環境、実際に生活している環境が重要です。

そのように考えて頂きたいのです。

⇒ 平和型というのとは〈平和に強い人〉といえますけど、本当にその人物が平和な環境（家庭・場所・地域）で暮らしているのか……それは実際にその人が暮らしている状況を知らなければわからないのです。

そして……国が平和だから、国民のすべてが平和だとは決まっていません。

〔たとえば〕福島原発で避難をした人は、動乱に遭っていました。集中豪雨とか地震あるいは火事などで、生活環境が動乱・波乱に置かれている人たちもいます。

動乱型 ⇒ 動乱で不安定な環境に向きます。

動乱型は動乱に強い宿命ですが、戦争とか災害の現場でなければ活躍できないのか……そうではありません。

「動乱とか不安定な環境に向く」という意味です。

そのような環境に身を置いたほうが、実力を発揮できる動乱型の宿命の人もいるのです。

〔たとえば〕その人の周囲で、なにかゴタゴタした問題が起っているとか、会社ということでは……すごく不安定でゴタゴタがあるとか、組織のなかで揉め事があるとか、そのような環境のほうが自分のチカラを発揮して、出世できる人がいます。そういう状況に強いです。

濁の人が平和な環境に置かれてしまうと、^{たいくつ}退屈で気力が衰えてしまい実力を^{はっき}発揮できなくなります。

生活が安定しすぎていると、濁の宿命の人はストレスが^た溜まって、もっている力や特性を十分に^{おもて}表に出すことができなくなります。

〈**純の宿命**〉は不安定な環境には向かないのです。

会社内部がゴタゴタしているとか、面倒な事柄が起きて不安定な環境に置かれてしまうと、**純**の人はその影響を受けてしまいます。波乱に対処できず、精神的にも動揺

してしまい、実力を十分に出せなくなります。

〈純〉と〈濁〉はこのように考えてよいわけです。

〈純〉は本質的に^{おだ}穏やかな星が多いわけですから、性格的にも、人柄も^{あらあら}荒々しくくないのです。

もの静かさは質をもちます。このことも特徴のひとつです。

〈濁〉の人のほうが、はげしいです。

激しい性格 ⇒ たくましい

動乱に強いということは、なにかに挑戦できるという、たくましい質を^{そな}備えています。

そして…… 〈純〉と〈濁〉はつぎのようにもいえます。

〈純〉 平和で安定して穏やかな性格ということなので、純の人は（家庭的）です。

〈濁〉 動乱・波乱といった、不安定な環境に向くわけですから（非家庭的）です。

〈純〉 家庭的

〈濁〉 非家庭的

} このような違いもあります

⇒ 女性で〈濁〉の宿命

濁の女性は、非家庭的な宿命といえますので、結婚して家庭のなかだけに落ち着くような生活というのは……、よくいえば〔平和で安定している生活〕です。

そのような生活は適合しないのです。

女性であっても“たくましい性格”なのに、家庭のなかに閉じこもっているだけでは、^{たくま}逞しさを活かせません。それゆえ、どうしても不満足が^{めば}芽生えてきます。

家庭的な生活を強られる状況になると、心が満ち足りなくなり、満足できずストレスが溜まってきます。

本人は気持ちや態度が平静さを失って乱れてきます。

そうになると、家庭以外の不安定な状態……動乱の環境を自ら求めるようになります。

それは仕事よいですし、趣味でもよく、どのような事柄でもよろしいのです。そういった生活環境をもつことで、自分には生命力・活力がみなぎっていると感じるようになります。そのほうが運勢も伸びます。

参考：性格〔その人固有の感じ方や行動によって現れるその人特有の傾向・特質〕

⇒ もう1つ〈純と濁〉には、大切な考え方があります。

〈純〉はもともと^{おんわ}穏和ではあるのですが、周囲からの影響を受けやすいのです。参考：穏和〔おとなしい。事を荒立てない〕

〈純〉まわりの影響を受けやすい

純には「純粹」という意味がありまして“透明な水”を思い浮かべるとよいでしょう。

水は朱に^{しゆ}まじり合えば赤くなり、青い色を混ぜれば青くなります。いろいろな色に^そ染まりやすいわけです。

ペットボトルの清らかな飲料水に、わずかな^{どろ}泥が混入しても^{よご}汚れます。

純はまわりの影響を受けやすい質を内在していますから、良くも悪くも、まわりの色になれ^{した}親しむわけです。

〈純の人〉を取り巻く環境が清らかであれば^{ぜん}善となり、^{けが}汚れていけば^{あく}悪になります。

それゆえ、純は平和型だといっても、必ずしもおだやかで^{ぶじ}無事な生き方が出来るとは決まっていないのです。

〔たとえば〕子どもの頃に^{あくどう}悪童と付き合っ、悪い仲間に取り込まれると、^{とこ}社会規範から外れたほうへと進みます。そういう可能性をもっているのが純の宿命です。

^{だく}濁はもともと^{にご}濁っていますから、ほかの色を混ぜても、その色に変化が現れにくいといえます。

言い換えれば、濁の人は周囲の影響を受けにくいのです。

〈濁〉まわりの影響を受けにくい

これらの事柄が……純と濁の意味合いの基本としてあります。

☞ 間違えやすい部分があります。

〈純〉まわりの影響を受けやすく、それに馴染みやすいといえます。

〈濁〉まわりの影響を受けにくく、そのものと^{なじ}馴染みにくいといえます。一体化しにくいともいえます。

〔たとえば〕親がお金に^{きたな}汚ければ……〈純の子供〉は親の真似をしてしまいます。親とおなじ色に染まります。

ところが〈濁の子供〉は……親の^{きょどう}挙動に反発する傾向があるのです。

“^{なじ}馴染む”それは（良くも）（悪くも）です。

参考：馴染む〈なれて親しくなる。とけあう。〉

参考：^{きょどう}挙動〔物事に対して、たちいふるまい。行為。ようす〕

ヤクザの世界で育つと、最も典型的なヤクザになるのが〈純〉です。

それは【十大主星特性④】〔牽牛星〕の科目で説明しました。

〈純の星〉はまわりに馴染みやすいのです。

それゆえ、最も悪人になるのは、純の宿命の人です。

「血も涙もない」というやり方、もし出来るとしたら、純の宿命のほうです。

まわりの環境に馴染んでしまいますから、好ましくない物事にであっても、影響されて感化されやすいのです。白はどんな色にも染まります。

〈純の宿命〉と〈濁の宿命〉には、内在する意味合いを取り違えて解釈してしまう部分があるわけです。

☞ 〈純の宿命〉〈濁の宿命〉の人は、宿命と環境が一致したほうが生き易い^{い やす}です。参考：易い〔楽に行えるさま。たやすい。〕

動乱型の人は、その世界で生きるほうが活躍できますし、生き易いのです。平和型の人は安定した世界のほうが生き易いのです。

そのように考えて頂きたいのです。

⇒ 〈純濁〉をつかって、『相性』をあいしょう観ることができます。

おもに結婚の相性です。

ここでは ○ × であらわします。

純と純 ○

純の人と純の人、相性は○です。相性はよいです。

濁の人と濁の人、相性はよいです。

濁と濁 ○

純の人と濁の人、相性は悪いです。

純と濁 ×

これは簡単ですけど、〈純〉と〈濁〉の世界は違います。

結婚して、一緒に暮らしてゆくというのであれば、純濁が一致していたほうが、一緒に暮らし易いです。

純と濁の夫婦は「長い結婚生活のあいだに、ヤスリでこす擦りあ遭うようになる」という表現があります。

〈純と純〉〈濁と濁〉の結婚であれば……相性はよいのです。

〈純と濁〉結婚生活の相性は悪いと考えてください。

☞ 結婚ということではいえば……。

〈純〉家庭的

〈濁〉非家庭的

純は家庭的、濁は非家庭的、という意味がありますから、ここに焦点しょうてんを当て嵌あめて考えればよいのです。

参考：焦点〔注意や興味・関心などが集中するところ〕

純と純の夫婦は、家庭的同士なので、2人の気が合う部分です。

濁と濁の夫婦は、非家庭的同士なので、これも気が合います。

☞ 〈純〉と〈濁〉の夫婦の姿はどうでしょう。

夫は純の宿命で家庭的、妻は濁の宿命で非家庭的という組み合わせで結婚して、妻を家庭に納おさめるような生活になりますと、濁の妻に不満が芽生えてくるのです。

非家庭的というのは、家庭内だけに収おさまることができないのです。

〈濁の妻〉は外へ頻繁に出歩くとか……仕事をもって外へ出るとかの生き方のほうが、濁の妻には合っているわけです。それが濁本来の姿ですから、家庭のなかに押し込まれてしまうと不満が噴出します。

〈濁の妻〉は「仕事をもちたい」とか「外に出たい」と想う可能性が高いです。

このことは好きな趣味とか、ほかの行動でも構いません。外へ出て働くだけとは限りません。

いずれにしても、家庭の外で自分のチカラを発揮したい。というふうになってくるわけです。

ところがです……。

〈純の夫〉は家庭的ですから、妻は家に居てもらいたいと考えます。

このことは〈純の夫〉と〈濁の妻〉の夫婦であっても、経済的な理由とかで、妻も働かなくてはならない事情があれば別です。

そのような特別な理由がなければ、妻には家に居てもらいたいと望むのが、〈純〉の夫の基本的な性格といえます。

そうしますと、その部分が夫婦のあいだにおける意見の隔^{へだ}たりになって齟^そ齬^ごが生じてきます。

ボタンの掛け違いのように、意見が合わなくなります。

新婚当時は夫婦熱^{あつあつ}熱でも……結婚生活は長いですよ。

熱^{ねっ}も冷^さめてきます……。

〈濁の妻〉は家にいると不満がつのってくる。

妻は仕事をもちたいと想うようになる。

〈純の夫〉はそれに不満をいなく。

〈純の夫〉は家庭的だといいましたが、家庭的というのは、家庭は大切と考える人でしょう。

夫は家庭が平和で、のどかで、安定しているのが望ましいと考えるわけです。

家庭を大切に考える夫は、どうしても夫自身の眼が家庭のほうへ向くことになります。

端的に言えば、「家のことに口出しをする、口を挟む」とかも昂^{こう}じてくるでしょう。

〔司禄星〕のところでも、おなじような説明をしました。

〈濁の妻〉にしてみれば、夫から家庭のことをいろいろいわれるのは、いやだし、けむったいのです。

「口出しをして欲しくないわ……」と、おもうようにもなるでしょう。

この問題だけで「2人が離婚になる」という結論は出せませんが、このようなことに起因して、ご夫婦の意見が合わなくなることが、多くなってくるわけです。

それが重なって、夫婦仲が悪いほうへ向かってしまうと、純の夫はますます家のことに口を挟むようになります。夫の側としては、仲良くして、平和な家庭を築こうという思いが強くなると、口出しをしたり、仕事が終わると、早く家に帰って来たりするようになりやすいわけです。つまり、自分が家のことも、あるいは、子供たちの面倒もなるべく^み見てやろう、というふうな姿になって行くわけです。

そうになると、濁の妻としては、ますます不満が増えて、ストレスが蓄積する悪循環になってゆきます。

世間から「家族おもいで、家庭を大切にするよいご主人ですよね」とかいわれると……濁の奥さんの^{むねうち}胸内では、（うるさいだけ、わずらわしいだけ）という思いが^{こう}昂じて、夫の行動・夫の姿さえ、^{うと}疎ましくなってくるわけです。

☞ 奥さんが濁なら……夫が少々非家庭的であっても、「夫が動乱に立ち向かってゆく」そういう姿をみれば、（頼もしい夫だわ）と想うわけです。

算命学はこのように考えてゆくわけです。

これから勉強が進んでいくと……ご理解いただけますが、

「^{あいしょう}相性を^み観る」のは〈純と濁〉が全てではありません。

相性の観方はいくつもあります。

いくつもある観方を統合して「2人の相性の程度は……
こうですね」と、答えを出してゆくことになります。

そのなかでも **純濁法** は相性を観るうえでの大切な技法
ですから、人体図をだしたら〈純なのか〉〈濁なのか〉を、
必ず出してください。

夫婦の占いするときに〈夫は純〉〔妻は濁〕の夫婦とか、
〈夫も妻も純〉〈夫婦とも濁〉とかさまざまです。

その部分を見逃すことなく、観るようにしてください。

☞ それほど重要な部分ではないのですが、つぎのような観方があります。

どうせい
同星（おなじ星）が複数あると〈濁〉を生じます。つまりおなじ星が2つ以上あると、その星に「濁の質」が少し加わるのです。

おなじ星が2つ以上あると、そこに濁の質が少し加わる。

同星は〔貫索星が2つある〕〔鳳閣星が3つある〕とかです。

おなじ星が複数ある場合には、その星が〈純の星〉でも、〈濁の星〉でも、そこへ濁の質が少し加わるのです。

つまり、どうしつ同質の星が複数あるということは、そこに少しようそ濁の要素が加わっている。というふうに観るわけです。

“ようそ濁の要素が加わる”といっても、〈純星〉が〈濁星〉にか替わってしまうということではありません。

参考・要素〔物事の成立に必要な成分・条件〕

☞ **純濁法** はあくまでも……、

濁の星よりも、純の星が多ければ ⇒ 純の人体図です。

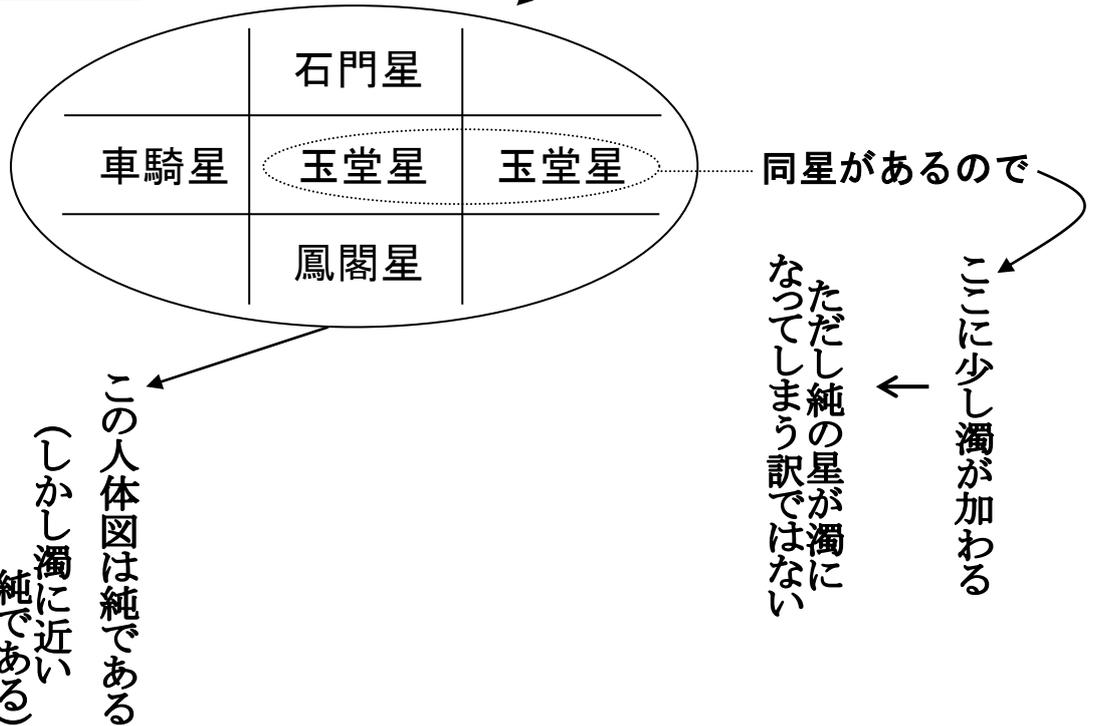
純の星よりも、濁の星が多ければ ⇒ 濁の人体図です。

人体図に〈純星〉か〈濁星〉のどちらかが多ければ、その人体図の特徴です。人体図に純の星多ければ〈純の人体図〉です。

つまり〈純の宿命〉です。それは変化しません。

〔たとえば〕 **宿命（1）同星** には〔玉堂星〕が2つあって、〔鳳閣星〕が1つありますから **純の人体図** です。

宿命（1）同星



玉堂星と玉堂星は〈じゅんせい純星とじゅんせい純星〉玉堂星のどうせい同星です。

宿命（1）同星 のように〔おなじ星が2つ以上あると濁の気が生じる（加わる）〕ということです。

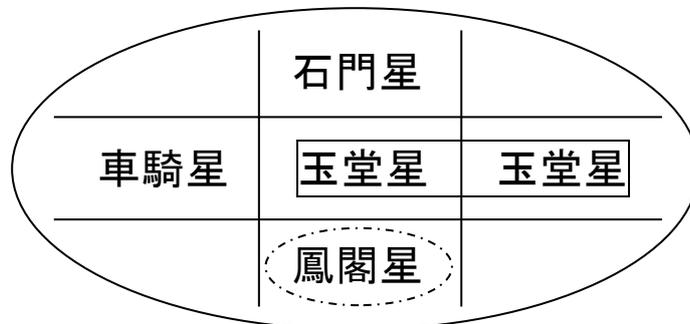
☞ 間違いないようにしてください。

玉堂星は本来〈純〉です。玉堂星の純の質に（少し濁の質が加わります）ということの意味しているのです。

宿命（1）同星 は純の宿命です。それは変わりません。

純の宿命に少し濁の質が加わって、純なのですが……
 チョット濁に近いような、そういう純の人もいます。

宿命(2)純の人体図は 玉堂星2つの同星 に加えまして、
 鳳閣星が1つありますから、純星3個の〈純の人体図〉
 です。



〈純〉の人体図ですけど 玉堂星2つの同星 があること
 で、〈濁〉の質が少し加わりますから、“濁に近い純”の
 人体図というふうに考えてください。

参考：近い〔距離のへだたりが少ない〕

☞ 夫婦の相性の程度を観るには、夫と妻の人体図にある
 〈純星〉と〈濁星〉を数えます。

先ほど、純と純は相性が良い、純と濁だと相性が悪い、
 といいました。そこで……より正確にどの程度の相性な
 のかを観るときには、純星と濁星を数えます。

純と濁の数までおなじだと、より相性がよくなります。

具体的に…… **宿命（3）Aさん** と **宿命（4）Bさん** です。

宿命（3）Aさん 夫は〈純〉です。妻も〈純〉の宿命です。

夫は純星^{じゅんせい}が3つで、濁星^{だくせい}が2つあります。

妻は純星が5つありますから、全部が純の宿命です。

(妻は純星が5つあるので、全純^{ぜんじゅん}の宿命といいます)

宿命（3）Aさん 夫と妻

夫			妻		
	禄存星			牽牛星	
龍高星	鳳閣星	牽牛星	司禄星	司禄星	禄存星
	貫索星			鳳閣星	

Aさん夫婦は、夫も妻も〈純〉の宿命です。

その意味では、相性がよい部類に入ります。

しかし〈純星〉と〈濁星〉の数は、夫のほうは濁星を2つもっているわけです。妻は全純で、濁星は1個もない人体図です。

そうしますと、この夫婦の相性は、よい部類に入りますが、

お互いに合わない部分を兼ね備^かえているということになります。

お互いに調和しない部分をもち合わせている夫婦です。

このように考えるわけです。

宿命（4）Bさん 夫も妻も、2人とも〈純〉の宿命です。

夫は純星^{じゅんせい}4つ、濁星^{だくせい}が1つあります。

妻も純星^{じゅんせい}4つ、濁星^{だくせい}が1つあります。

宿命（4）Bさん 夫と妻

夫			妻		
	司禄星			石門星	
鳳閣星	調舒星	司禄星	牽牛星	禄存星	鳳閣星
	牽牛星			鳳閣星	

宿命（3）Bさん 夫も妻も、2人とも〈純〉の宿命です。

夫は純星が4つで、濁星が1つです。

妻も純星が4つで、濁星が1つです。

Bさん夫婦は純の宿命で、純星と濁星^{かず}の数も一致しています。

☞ Aさん夫婦とBさん夫婦を比べたときに、AさんもBさんもおなじ〈純星〉同士の夫婦です。Bさん夫婦の場合は、純星と濁星の数が一致していて、夫にも、妻にも、同星があります。濁の要素が加わることも一致していますから、特に相性がよいです。となるわけです。AとBにはこのような違いがあります。

☞ 一方は純の人体図で、一方は濁の人体図の夫婦の相性は（×）です。と説明しました。

〔たとえば〕〈純の人体図の夫〉と〈濁の人体図の妻〉という組み合わせだとしても、夫のほうは〈純星〉3個で〈濁星〉を2個もっていれば、〈純星〉のほうが多いですから、夫は純星の人体図になります。夫は純の宿命です。

〔たとえば〕人体図を観たときに、夫は〈純星〉3個で、〈濁星〉2個をもっているのであれば、〈純星〉のほうが多いわけですから、夫の宿命は〈純〉です。上の説明とおなじです。

そして、妻の人体図をみると、〈濁星〉3個、〈純星〉が2個あります。そうしますと……この夫婦の〈純星〉と〈濁星〉を比較したとき、それほど大きな違いはありませんから、取り立てて問題にするほど、夫婦の相性が悪いということにはならないのです。

ここでは〈純〉と〈濁〉だけに焦点をあてています。

夫婦の〈純星〉と〈濁星〉の数を比較したときに……、夫婦のあいだにどの程度の『差・へだたり』があるのか、それはこのようにして観ていくわけです。

⇒ 純濁法は、他人・兄弟・友達の関係にも、^あ当て^は嵌めて観ることができます。

ただし……友達とか、仲間ということ考えると、通常は1人だけということはないでしょう。

私たちは何人もの^{ひと}他人と、人生の過程で^{めぐ}巡り^あ合い、お付き合いしながら、生きていくようになります。

自分が〈純〉であれば〈濁の人〉、自分が〈濁〉であれば〈純の人〉というふうに、質の異なる人たちと人間関係を築くほうが自分自身は成長します。

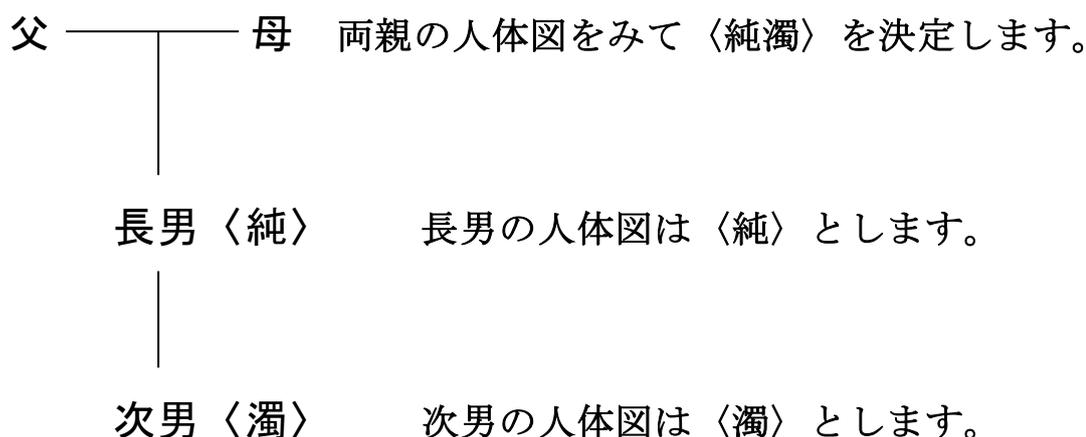
⇒ さまざまな状況を踏まえて考えますと、友達であっても〈純〉なら純同士、〈濁〉なら濁同士（そのほうが気持ちは通じ合う）といえますが、自分が純だからといって、純の人とばかりで付き合っていたとすれば、自分自身が成長しなくなると考えています。

自分とは異なる質をもつ人たちとも、付き合う必要があるわけです。

算命学はそのように考えています。

⇒ 子供の場合には、純濁法でみるよりも、つぎに^あ挙げる
ことのほうが重要になります。

〔たとえば〕 父と母がいます。 宿命（5）親と子供



親と子供の^{あいしょう}相性を〈純濁〉で考えたときに、親と子がお
なじ〈純濁〉のほうが「相性はよいはず」……そのよう
に考えるのではありませんか……いかがですか？

その考えは間違っているとはいえないのですが、もっと
重要なことがあります。

子供にとっての『平和と動乱』というのは、親の仕事は
転勤が多いとか、経済的にどうなのか、そういう事柄も
入りますが、それよりもっと問題なのは、両親の夫婦仲
が、（良い）（悪い）ということのほうが、子供には重要
だと考えています。

〈純〉の人体図は平和型

〈濁〉の人体図は動乱型

大人も子供もおなじです。

子供にとって……親の夫婦仲が悪ければ動乱です。

家で父と母がしょっちゅうケンカばかりしている。

お父さんが酔っ払ってお母さんを殴るとか、お母さんが

お皿を手にかざして、お父さんを追い掛けまわすとか、

そのような家庭だとすれば……動乱の家庭です。

さっこん

昨今はニュースで結構ありますよね。

夫が妻を殺したとか、妻が夫を殺したとか、その夫婦は

動乱です。子供がいればその動乱に巻き込まれます。

そのような家庭環境に強いのは〈濁の子供〉です。

夫婦仲がよいのは……子供にとって平和な環境です。

両親の仲が良くて、かぞくだんらん家族団欒ですごせる家庭は、子供にとって、安心して過ごせる場所です。

親の夫婦仲が悪い、それは動乱の家庭です。

両親が離婚したとなれば、子供にとって大動乱です。

そのようなきびしい環境でも、たくましく生きていけるのは〈濁の子供〉です。

親が離婚したことが原因で、子供が非行に走る、子供が登校拒否になるとか、そのように崩れるのは〈純の子供〉です。

それゆえ〈純の子供〉が生まれて育つ過程においては、両親は仲良くする必要があります。

でも、それが実際には、なかなかうまくはいかないのです。

☞ 実際の問題として、両親に〈純の子供〉と〈濁の子供〉の2人が生まれて来たら、〈純の子供〉には家庭団欒かていだんらんの育て方をする事です。

兄弟でも「個々の質はおなじではない」と算命学は考えています。

宿命（5）親と子供 では〈純の長男〉よりも〈濁の次男〉には……きびしい環境を与えるのです。

ていど
(程度はありますよ)

一般的に……親としては、「兄弟を平等に育てよう」とするでしょう。長男は〈純〉なので家庭団欒の育て方をする。

算命学は兄弟でも、育て方は異なると考えています。

参考：程度〔物事のほどあい。物事の強弱。適当とみなされる度合い〕

〔たとえば〕次男は遠くの学校に通わせるとかでも良いですし、寮に入れるとかでもよいですし、クラブ活動で厳きびしく鍛えられるというのでもよいですね。

〈濁の子供〉にとって、なにかしら動乱となるような、環境を与えてあげたほうが、その子供の伸びが良くなります。次男〈濁〉には厳きびしい環境を与える

濁は動乱型〔世の中が騒ぎ乱れるような、災害・戦争・不安定な状況〕に強い

濁は〔気持ちや態度が平静さを失って、激しく乱れるような環境〕に強い。

〈濁〉は少し理解しにくい側面そくめんがあるかと思います。

さきほど夫婦の相性ということで、人体図のすべての星が〈純〉の〈全純ぜんじゅん〉という人もおられるわけですが……世の中は〈純〉なの〈濁〉なの……ということでは濁っている『濁の世界』だと、算命学は考えています。

参考：世の中〔この世に生きる人間の構成する社会〕〔社会での人間関係〕

参考：側面〔いろいろな性質・特質があるうちのひとつ〕

「中庸学」における霊的な観方としても、兄弟の魂たましいは別です。親と子供の縁えにしはあっても、親と子の魂は別です。

縁えん〔一切の存在は因縁いんねんによって生ずる〕わけですが、魂たましいというのは「個々の存在」なのです。

参考：因縁〔仏語。結果を引き起こす直接の内的原因である縁のつながり〕

☞ 世の中・人間が生きる世界を、皆さまはどのようにお考えですか……？

昨日まで平和だったが、突如として震災による大洪水、土砂災害、放射能が拡散するとか、新型コロナが^{もうい}猛威をふるう、急に戦争が勃発してロケット弾が打ち込まれるとか、さまざまな状況に^{おちい}陥ります。

不安定・動乱ということでは、大手企業だ、大きな銀行だといっても、あっという間に潰れてしまうということが起こります。

世の中というのは、不安定だと算命学は考えています。そのとき、もし〈全純〉の人がいるとすれば、現実世界において生きていられない。ということにもなります。

しかし、人体図におなじ星〔同星〕があれば、それらの星に〔濁の質〕が加わりますから、その部分で世の中の流れに合流していけるということになるわけです。

〈純〉の人体図の人でも、おなじ星が2つ以上あれば、そこに濁の要素が加わります。

それが濁の社会に対応できる^{おうぎ}扇^{かなめ}の要なのです。

☞ 〈純〉あるいは〈濁〉そのものに、良いとか、悪いとか、それはまったく無いのです。

しかし、人体図の5星がすべて純の星〈全純〉だとすれば、とても生きにくいといえます。

でも、人体図のなかに同星が2つあれば、〈濁〉の要素が加わりますから、その部分が世の中の仕組みに合せられる“かなめ”にもなるわけです。

🔍 鑑定ときは、そのような箇所を見逃さないで……
観ていただきたいのです。

□ 曾我ひとみさんの一家を〔例題〕として考えます。

曾我 ひとみさん 一家

曾我ひとみ 1959-5-17

	貫索星	天報星
牽牛星	調舒星	牽牛星
天報星	貫索星	天将星

ジェンキンス 1940-2-18

	石門星	天庫星
禄存星	牽牛星	玉堂星
天馳星	玉堂星	天報星

濁

(守備) 貫索星・貫索星

(伝達) 調舒星

(攻撃) 牽牛星・牽牛星

純

(守備) 石門星

(伝達)

(攻撃) 牽牛星

(魅力) 禄存星

(習得) 玉堂星・玉堂星

長女 (美加) 1983-6-1

	調舒星	天胡星
貫索星	車騎星	鳳閣星
天禄星	牽牛星	天貴星

次女 ブリンダ 1985-7-23

	鳳閣星	天南星
石門星	車騎星	車騎星
天将星	貫索星	天庫星

濁

(守備) 貫索星

(伝達) 鳳閣星・調舒星

(攻撃) 車騎星・牽牛星

濁

(守備) 貫索星・石門星

(伝達) 鳳閣星

(攻撃) 車騎星・車騎星

☞ 同じ星を持つ者は相手と気持ちに通じ合う。 お互いの考えを良く理解できる。

*ジェンキンスさんだけ異質な人体図

① 家族で何かやろうとすると、一人だけ反対の意見を出す。

② 曾我さんは娘たちが生まれて強くなった。

③ 娘2人は曾我さんの云う事を聞く。ジェンキンスさんだけ云う事を聞かない。

☞ 十二大従星の勉強はまだですが……人体図に載せました。

⇒ ここからは、04頁 **純濁法** を参考にして、〈純星〉と〈濁星〉の判別をします。

❖ 曾我ひとみさんはどっちでしょう？

〈濁〉です。

〔貫索星・調舒星・貫索星〕と濁星が3つあります。

〔牽牛星〕は純の星です。

濁のほうが多いので、曾我さんは〈濁〉の人体図です。

❖ 長女的美加さんはどっちでしょうか？

〈濁〉です。

〔調舒星・車騎星・貫索星〕と濁星のほうが多いですから、これも濁の人体図です。

❖ 次女のブリンダさんはどうでしょうか？

これも濁です。

この人は〔鳳閣星〕だけが純の星で、ほかの4つは濁星なので、濁になります。

❖ ジェンキンスさんはどうでしょう？

夫のジェンキンスさんは〈純〉です。

⇒ 妻の人体図が〈濁〉の場合については、すでに説明したわけですが、曾我さんご夫婦もそのパターンです。

現象としては……夫婦喧嘩とか、意見の食い違いとかが起るはずですが、それに加えて4人家族のなかで、3人が〈濁〉なのに、ジェンキンス1人だけ〈純〉です。

このように家族のなかで1人だけ〈純〉で、ほかは全員が〈濁〉となると、ジェンキンスさんだけが家族のなかで異質な存在になります。

〈純の人〉が異質になるということではありません。

ここで論じているのは、みんなが〈濁〉なのに、1人だけ〈純〉なので、一家のなかでは異質の存在という意味です。

ジェンキンスさんだけが、一家のなかで異質な存在。

参考：異質〔物事や人などの性質がほかとちがっていること〕

彼がアメリカ人だからということではなく、一家のなかで、1人だけ〈純〉の人体図なので、ジェンキンスさんだけが、ほかの3人とは考え方が違ってくるのです。

1人だけ考え方が異なる

その状態が悪く出ると、一家のなかでジェンキンスさんだけが“仲間はずれ”みたいな家族になります。

母親と娘 2 人は、なにかをやるのにいつも一緒なのに、彼 1 人だけが別のことをやっているという姿です。

1 人だけ浮いてしまって、さだまらない存在と考えるとよいでしょう。そのようなお父さんになっていきます。

“1 人だけ浮く存在”この状態は……夫婦仲がよくても起こりません。仲が良くても、悪くても、そうなります。

☞ 37 頁に 曾我 ひとみさん一家 4 人の宿命を並べたのは、もう 1 つ理由があるのです。

このことは……まだチョット難しいとは想^{おも}うのですが、十大主星がもっている本能は決まっています。

〔貫索星〕なら守備本能だとか、〔調舒星〕は伝達本能だとか、〔牽牛星〕は攻撃本能だとか、十大主星のもつ本能の意味合いが重要なものとなってくるのです。

さて、人体図の〈純星〉と〈濁星〉が判別しましたら、曾我 ひとみさん一家 各人の人体図がもつ〈純〉と〈濁〉はすでに記述してありますが、その人体図の十大主星の各星が「なに本能の星」になるのかを調べるのです。

❖ 曾我ひとみさんの人体図に載っている十大主星は何本能なのかを決めます。彼女は守備本能の星〔貫索星〕が2つありますから、頑固がんこの程度はふつうではなく、自分の主張を貫つらぬき通とおす女性といえます。

〔貫索星〕〔貫索星〕⇒ 守備本能

そして、伝達本能〔調舒星〕を1個もっています。

〔調舒星〕⇒ 伝達本能

〔牽牛星〕も2つあります。攻撃本能の星です。

〔牽牛星〕〔牽牛星〕⇒ 攻撃本能

このように、その人のもっている星を『本能』になおすと、曾我さんは守備本能の星2つ、伝達本能の星1つ、攻撃本能の星2つをもっています。

人体図に3種類の本能の星があるということになります。守備本能と伝達本能と攻撃本能の星だけがあります。

魅力本能の星〔禄存星・司禄星〕ないです。

習得本能の星〔龍高星・玉堂星〕ないです。

このようになるわけです。

☞ 曾我さんとおなじ方法で、ほかの3人も^{おこな}行います。

❖ 長女をみますと、長女も〔貫索星〕をもっています。
守備本能の星があります。

〔貫索星〕⇒ 守備本能

〔鳳閣星〕と〔調舒星〕をもっています。

この2つは伝達本能の星です。

〔鳳閣星〕〔調舒星〕⇒ 伝達本能

そして〔車騎星〕〔牽牛星〕をもっています。

〔車騎星〕〔牽牛星〕⇒ 攻撃本能

魅力本能の星〔禄存星・司禄星〕ないです。

習得本能の星〔龍高星・玉堂星〕ないです。

長女の人体図には、守備本能の星と、伝達本能の星と、
攻撃本能の星があります。

本能でいえば、曾我ひとみさんとピッタリ一致します。

このように、自分のもっている本能が、母親とピッタリ
一致するのは^{めずら}珍しいです。

❖ つぎに、次女の人体図をみます。

次女も〔貫索星〕と〔石門星〕をもっています。

〔貫索星〕〔石門星〕⇒ 守備本能

〔鳳閣星〕をもっています。

〔鳳閣星〕⇒ 伝達本能

〔車騎星〕が2つあって、これは攻撃本能の星です。

〔車騎星〕〔車騎星〕⇒ 攻撃本能

次女の人体図も、守備本能・伝達本能・攻撃本能という
3種類だけです。

魅力本能の星〔禄存星・司禄星〕ないです。

習得本能の星〔龍高星・玉堂星〕ないです。

このように、母親と娘の3人がピッタリと一致するのは
非常に珍しいのです。

❖ 父親のジェンキンスさんはどうでしょう。

〔石門星〕の守備本能が1個あります。

伝達本能の〔鳳閣星〕と〔調舒星〕ないです。

〔石門星〕⇒ 守備本能

そして〔禄存星〕魅力本能の星が1個あります。

〔禄存星〕⇒ 魅力本能

〔牽牛星〕の攻撃本能が1個あります。

〔牽牛星〕⇒ 攻撃本能

それから〔玉堂星〕を2個もっています。

〔玉堂星〕〔玉堂星〕⇒ 習得本能

ジェンキンスさんの人体図にある星を本能になおすと、
守備本能の星、魅力本能の星、攻撃本能の星、習得本能
の星になります。

母と娘の3人はいずれも、伝達本能の星をもっています
けど、ジェンキンスさんは伝達の星は1つもありません。

ジェンキンスさんには、魅力本能の星がありますけど、

母と娘の3人は、魅力本能の星が1個もないです。

ジェンキンスさんには習得本能があるのに、母と娘3人は、習得本能は1個もないです。

このように並べて見るとおわかりになると思いますが、母娘3人と比較すると、ジェンキンスさんの本能の種類だけが、母娘3人とまったく違います。

しかも、母と娘の3人は〈濁〉の人体図です。

なおかつ、3人とも本能がピッタリ一致しています。

ジェンキンスさんだけが〈純〉の人体図です。

本能で調べても、1人だけ異なる本能です。

☞ おなじ本能をもっていることについて説明します。

母がもっている本能が娘にもあるわけです。このように母と娘がピッタリおなじ本能になるということは……、母親と娘とは気持ちを通じ合います。

おなじ本能をもつ者同士は、気持ちを通じ合う。

曾我ひとみさんがもっている本能が娘たちにあります。

曾我ひとみさんにない本能は、娘たちにも無いです。

このような母と娘の姿というのは、^{しこうかい}思考回路がおなじになりますから、母と娘たちはお互いの考えをよく理解できます。

お互いの考えを、双方が良く理解できる。

母親と娘がおなじ本能になっていますから、[たとえば]娘が「あれ」といっただけで、母親は「ああ、あれね」というように、わかるようになります。

^{いしんでんしん}「以心伝心」という言葉がありますが、「あれよ」だけで通じてしまうわけです。

おなじ本能をもっている親子とか、夫婦とかで、家族になっていたら、いつも一緒に顔を合せているわけですから、顔を見ただけで相手がなにを考えているのか、ほぼわかってしまうということが起こります。

曾我さんと娘さんはそういう組み合わせになっています。

曾我さんが、娘たちに「あれどうしたの？」といえ、娘たちは「ああ、お母さんあれはこういうわけで、こうなったのよ」それで通じてしまう親子といえます。

ところが、曾我さんがジェンキンスさんに、「あれどうしたの？」と訊くと、「ああ、あれか、あれはこうだよ」とまったく関係ないことを答えたりするわけです。

そのような違いがでてくる夫婦になるといえます。

ボタンの掛け違いのように、齟齬そごが生じてくるわけです。

曾我さん家族の〈純〉と〈濁〉の違いは、3人は濁ですがジェンキンスさんだけ純です。

本能で考えても、母と娘の3人はピタリと一致しているのに、父親1人だけがまったく違います。

ジェンキンスさんだけが、家族のなかで異質な人体図であり、異質な存在です。

そうなってくると……つぎのような現象が起ります。

箇条書きで考えていきますけど、曾我ひとみさん家族の場合は、1人だけが〈純〉の人体図で、本能も違う人物ということですから。

(1) 家族で何かをやろうとすると、1人だけ反対意見を出す。

こういう人になっていきます。

〔たとえば〕母親が「みんなで、今度こういう所に行きましょうよ……」そういう話になったら、娘たちは賛成するのに、ジェンキンスさんが反対します。

「いや、あっちのほうがいい」とか、なにかにつけて、このようなことが多くなります。

そして、つぎのようなこともいえますよ。

曾我さんは「らちひがいしゃ拉致被害者」です。

自分の母国・日本でいきなり拉致されて、北朝鮮に連れて行かれたわけです。このときに曾我さんのお母さんも一緒に拉致されましたが、お母さんは行方不明ということです。曾我さんは一人ぼっちの状況におかれて、非常に心細い立場だったわけです。

それでありながら、北朝鮮で立派に生き抜いてきたということは、〈濁〉の宿命であったことも理由の1つです。

〈濁〉は動乱には強い宿命です。

曾我さんが生き抜いてこられたのは、〈濁〉もそうですがそのほかにもいくつかの要素をもっています。

宿命そのものが、とても“したたか”なのです。

参考：したたか〔非常に強いさま。逆境に立たされてもくじけないさま〕

ジェンキンスさんは純です。

彼は自分から北朝鮮へ行ったわけです。

自分から北朝鮮へ亡命して行くのと……無理矢理に拉致されてしまうのとでは、はるかに曾我さんのほうが動乱といえます。彼女が波乱のなかで困難を切り抜けて生きてきたのは、〈濁〉の宿命も理由の1つです。

⇒ 娘さんの人体図を観ておわかりのように、娘さん二人が、曾我さんとおなじような星をもって、生まれて来てくれたわけです。

先ほど、母親が「みんなで、今度こういう所に行きましようよ」と、そういう話になったときに、娘2人が賛成してくれるとなれば、母親はそれだけでとても心強いはずです。

曾我さんのような人体図をもつ人に、自分とおなじような星をもつ子供が生れると、その人はより強くなります。曾我さんは、子供が生まれたことで強くなりました。

(2) 曾我さんは、娘たちが生れて強くなった。

ここまで〈純〉と〈濁〉ということ考えてきましたが、

まだ皆さまは慣れてないので、難しいところがあると思いますけど、曾我ひとみさんのように、いきなり拉致されて、北朝鮮という国へ連れて行かれて、まったく言葉も通じない、そこで生きて行かなければならない状況下に置かれて、生き抜いて来たわけです。

曾我さんにとって、彼女とおなじような宿命の娘が2人も産まれて来てくれたのは、とても有り難いことです。自分の考えを1番理解してくれる娘が2人も生まれたら、すごく心強いはずです。

ちなみに……このことはどなたにも^あ当て^は嵌まります。

ここでの話しは曾我ひとみさんですが……まったくおなじ本能の子供、純濁でも自分とおなじ子供が2人も産まれたら、それだけでお母さんは強くなります。

曾我さんひとみさんという人物にとって、娘さん2人を産んで、成長したことは大きな^{はげ}励みになったのです。

ここまでの話をまとめますと、この家族のなかでは……

(3) 娘二人は、曾我さんの意を受けとめるけど、

ジェンキンスさんだけは、妻のいうことを従わない。

算命学ではこのように占うことができます。

〈濁〉の2人の娘は、曾我さんのいうことを聞きます。

〈純〉の夫は、言うことを聞いてくれない、理解してくれない。そういう家族になります。

このように、1人だけがまったく違う人体図だと（彼がアメリカ人ということよりも）、その1人はいうことをきかなくなり、曾我さんがなにかするとき、娘たちは賛成してくれるのに、ジェンキンスさんだけ反対します。

☞ ジェンキンスさんも日本に来ることになって、飛行機から降りて来たら、曾我さんはいきなりキスしました。

曾我さんは、ジェンキンスさんだけは、簡単にいうことをきいてはくれないと理解していたはずで

何十年も一緒に暮らしていればわかるでしょう。

娘2人に関しては、あとで話せば理解してくれるという自信があったわけです。

しかし「夫はいうことをきいてくれない」という不安があったのです。あのキスは「今回だけは、私のいうことに従ってもらいますよ」この宣言なわけです。

おわかりいただけますでしょうか……。

このご夫婦の相性^{あいしょう}を星になおして考えたときに、決して相性のよいご夫婦ではないのです。

ふつう何年も離れていたら、母として初めに娘を抱きしめると想えます。

しかし……いきなり夫にキスをしたのは、曾我ひとみさんの決断宣言です。

そのように考えますと、曾我さんは北京で会うことを、嫌がっていました。

北京で会えば、ジェンキンスさんの背後には、北朝鮮の人間が何人もいるはずです。なかなか妻の意に^そ沿ってくれない夫と北京で会えば、ますます自分のいうことを聞いてくれないということがわかっていたから、北京で会うのは反対したのでしょう。

ジェンキンスさんとしても、北朝鮮の人間がいるのに、妻から日本に行こうと勧められても、『うん』とうなずけません。

彼の主星は〔牽牛星〕プライドの星です。

ジェンキンスさんの人生は……運勢的に人体図の第一命星（妻の座）からはじまっていますから、北朝鮮の生活は曾我さんに支えられて来た部分が多々あると想えます。そのジェンキンスさんも、妻の行動には驚いたでしょう。

「これはもうひとみの決意は固い」 そう思い知らされたはずです。彼は曾我さんの強さを熟知しています。

日本に帰ってきて、曾我さんは3人で佐渡へ行きましたが、ジェンキンスさんを除いてです。

彼に対する愛情はあるかも知れませんが、それよりも曾我さんは、娘と3人で暮らしたかったのです。

日本に永住すると決まると、3人で佐渡に行ってしまうわけです。

ジェンキンスさんがアメリカからの^{そつ}訴追をまぬがれても、家族のなかで暮らしてゆくのは、かなり寂しいものがあります。曾我さんと娘2人の意見に押し切られて、暮らしていかなければなりません。

ジェンキンスさんは、2017年12月11日〔77歳〕で他界しました。彼が佐渡に来た日の言葉があります。

「今日私の人生の最終章の始まりとなる日です」

当時のニュースでは、ジェンキンスさんが酔って骨折したそうです。「アル中」という報道もありました。

まだ、皆さんは慣れていませんので、少し難しかったとおもいますが、段々と読めるようになります。

それには丸暗記で覚えるのではなくて「なぜこのような意味合いになるのか」その考え方を理解なさって頂きたいのです。

そうなさることによって、星のうごきを読み解けるようになってゆきます。

鑑定の占いをするときにとても役立ちます。

【初年】 35回目【人体図純濁法】 終わります

つぎの授業 ⇒ 【初年】 36回目【二星相関変化法】